

ホーエス シュロス城(ドイツ、バイエルン州、フュッセン)

ドイツ、バイエルン州、フュッセンの町に建つ城

「Hohe[ホーエ]」は「高さ」、「高所」などの意味を持ち、「Hohes Schloß」は、そのまま『高い城(城館)』の意味で呼ばれています。

この町から60kmほど北西にあるバート・グレーネンバッハ[Bad Grönenbach]の町にも同名の城があり、それぞれ町の名前を添えて区別することもあります。一般的にホーエス城と言うと、フュッセンのこの城のことを指します。

ローマ帝国の時代からフュッセンにはドナウヴェルト～アウクスブルクから北イタリア～ローマを結ぶクラウディア・アウグスタ街道が通り、軍の駐屯地がありました。

古代末期には、アルプスを越える重要な交易路を警備するため、ローマ軍団のひとつである第三軍団イタリアの部隊がこのフュッセンに駐屯していました。

現在、城の建つ丘には1280年頃に城壁が建てられ、1291年に上バイエルン公、ライン宮中伯のルートヴィヒ2世(厳格公)によって築城が開始されました。

初期の城郭は低めの城壁や簡素な見張り台、住居などが建てられ、小規模な砦というような外観でした。

1313年頃にアウクスブルク教区の所有となり、アウクスブルク司教フリードリヒ1世・シュピト・フォン・フェーミンゲンによって増築され、アウクスブルク教区教会の離宮として使用されました。

1486年にアウクスブルク司教に就任したフリードリヒ2世・フォン・ツォレルンは、塔を嵩上げし、新たな居館や塔、外部城壁、小さな庭園などを設え、快適な離宮へと増改築をおこないました。現在の外観は、ほぼこの時に完成したものです。

その後、歴代のアウクスブルク司教によって内装が整えられました。

19世紀初頭にはバイエルン王家の所有となり、小規模な増築がおこなわれました。

城の北翼は1931年からバイエルン州立絵画コレクションとして一般公開され、この地方の画家や彫刻家が制作した絵画や彫刻などが展示されています。

「古城物語」による

